stryker

The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Clinical Biomechanics

第49回日本臨床バイオメカニクス学会

ランチョンセミナー3

膝関節温存手術のトピックス ～膝周囲骨切り術と半月板縫合術のピットフォール～

日　時　11月4日（金）　12:00 ～ 13:00

会　場　第３会場
ホテルニューキャッスル 2F曙（南）

座　長　山本 祐司 先生
弘前大学大学院医学研究科
整形外科講座准教授

演　者　米倉 暁彦 先生
長崎大学病院 整形外科 病院准教授
長崎大学病院 スポーツ医学診療センター
副センター長

申　込　本会のランチョンセミナーは整理券制ではございません。
教育研修講演申込者から先着順でのご入場となります。

単　位

【日本整形外科学会認定単位について】
本セミナーでは、下記の日本整形外科学会単位の内１つを取得できます。
単位取得は有料です。（受講料１講演１単位 1,000 円）
●日整会専門医単位（N）認定番号：22-1156
単位種別：[S] スポーツ単位
必須分野：[2] 外傷性疾患（スポーツ障害を含む）, [12] 膝・足関節・足疾患

共催：第 49 日本臨床バイオメカニクス学会 / 日本ストライカー株式会社
問合せ先：Endoscopy　担当：甲谷　優季　TEL.03-6894-0000

stryker

The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Clinical Biomechanics

第 49 回日本臨床バイオメカニクス学会 ランチョンセミナー 3

膝関節温存手術のトピックス ～膝周囲骨切り術と半月板縫合術のピットフォール～

米倉 暁彦 先生

長崎大学病院 整形外科 病院准教授
長崎大学病院 スポーツ医学診療センター 副センター長

抄　録

膝周囲骨切り術（around the knee osteotomy, AKO）や半月板縫合術などの膝関節温存手術の施行件数は近年増加している。増加の主な理由は新たな手術法の考案や手術デバイスの進歩によるところが大きい。

AKO に関する近年の最も大きな breakthrough はロッキングプレートを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術（OWHTO）の普及にある。OWHTO は現在でも gold standard といえるが，いくつかの欠点がありそれを補うために様々な術式が用いられるようになった。代表的なものは内側開大式粗面下脛骨骨切り術（OWDTO）や内側開大･外側閉鎖式高位脛骨骨切り術（HCWHTO）や Double level osteotomy（DLO）である。これらの利点，欠点，ピットフォールについて述べる。また当科では脛骨顆外反骨切り術（TCVO）も行っており，最近の術式の工夫や成績に関与する因子の検討を紹介する。

半月板縫合術に関しては，縫合糸を用いた inside-out 法，outside-in 法が一般に行われてきたが，その適応は関節包付着部近傍の周辺部 1/3 の有血行野で，かつ変性の少ない断裂といわれてきた。しかしながらたとえ関節鏡下に最小限の半月板部分切除術を行ったとしても，術後に変形性膝関節症性変化が進行する症例があることから，無血行野や変性のある半月板断裂に対しても縫合術が積極的に行われるようになってきた。新たな手術手技としてはアンカー等を用いた関節包を含む，または関節内のみで行う all-inside 法，横断裂に対し hoop 構造再建を目的とした tie-grip 法，後根断裂に対する pull-out 法，半月板逸脱に対する centralization 法などがあり，断裂形態により使い分けられている。これら様々な半月板縫合術の成績や手技上のピットフォールについて述べる。

Literature Number：SM11-18
EA/SJ 0m 09/22 ｜

Copyright ©2022Stryker